



2023年8月22日

東日本旅客鉄道株式会社

SBTの認定取得に向けたコミットメントレター提出について

- JR東日本グループは、パリ協定に基づく温室効果ガスの排出削減目標「Science Based Targets（サイエンス・ベースド・ターゲット）」（以下「SBT※1」）を認定する機関「SBTイニシアチブ」（以下「SBTi※2」）に対しこのたびコミットメントレターを提出しました。
- 今後はSBT認定取得を目指して2年以内に削減目標を策定し、グループ自らのみならず、グループ事業全体のサプライチェーンにおいて排出される温室効果ガス削減にも貢献していきます。
- JR東日本グループは、2020年度に公表した環境長期目標「ゼロカーボン・チャレンジ2050」において掲げる2050年度のCO₂排出量「実質ゼロ」の達成に向けた挑戦を続け、持続可能な社会の実現に向けた新たな価値を提供していきます。

※1 SBT：パリ協定が求める水準と整合した、企業が設定する温室効果ガス排出削減目標であり、5年～10年先の目標を設定します

※2 SBTi：CDP（旧カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト）、国連グローバル・コンパクト（UNGC）、世界資源研究所（WRI）、世界自然保護基金（WWF）の共同イニシアチブで、企業の温室効果ガス削減目標の評価を行っています

JR東日本グループは、パリ協定に基づく温室効果ガスの排出削減目標であるSBTの認定機関であるSBTiに対し、このたびコミットメントレターを提出し、SBTの認定取得を目指すことを表明いたしました。SBTiは、企業が掲げる温室効果ガスの削減目標が、パリ協定の「地球の気温上昇を産業革命前と比べて1.5℃未満に抑える」という目標達成に必要な水準を満たす場合、その削減目標を「パリ協定と科学的に整合している目標（SBT）」として認定します。

本コミットメントでは2年以内に削減目標を策定することを表明しております。今後は、JR東日本グループが排出した温室効果ガスの削減だけでなく、グループ事業全体のサプライチェーンにおいて排出される温室効果ガス削減にも貢献していきます。

JR東日本グループは2020年に発表した環境長期目標「ゼロカーボン・チャレンジ2050」において、2030年までに2013年比でCO₂排出量を50%削減し、2050年までには「実質ゼロ」を達成することを掲げており、今後も持続可能な社会の実現に向けた挑戦を続けます。

（「ゼロカーボン・チャレンジ2050」：<https://www.jreast.co.jp/eco/>）